

球磨川水系 国管理河川の浸水想定図(計画規模降雨) 【現況河道】

下流部

位置図

索引図

↑球磨川

- 凡例
- 浸水した場合に想定される水深
(ランク別)
- 0.5m未満の区域
 - 0.5m～3.0m未満の区域
 - 3.0m～5.0m未満の区域
 - 5.0m～10.0m未満の区域
 - 10.0m～20.0m未満の区域
 - 20.0m以上の区域
 - 市町村境界
 - 河川等範囲

- 1 説明文
- (1) この浸水想定図は、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/80(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/80(1.3%)および年超過確率1/100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%))の降雨により浸水した場合に想定される、浸水範囲と浸水深を表示した図面です。
- (2) この浸水想定図は、現況の球磨川水系球磨川、前川、南川、川辺川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/80(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/80(1.3%))および年超過確率1/100(毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100(1%))の降雨に伴う洪水により球磨川、前川、南川、川辺川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。
- (3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この浸水想定域内に含まれていない地区においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形(昭和47年7月型)を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。
- 2 基本事項等
- (1) 公表年月日 令和4年11月
- (2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省九州地方整備局
・八代河川国道事務所：球磨川水系 球磨川、前川、南川、川辺川
- (3) 実施区間
【八代河川国道事務所】
・球磨川水系 球磨川
左右岸：熊本県球磨郡湯前町字焼尾五千五十一番地先市房第2堰堤から海まで
・球磨川水系 前川
左右岸：球磨川分派から海まで
・球磨川水系 南川
左右岸：球磨川分派から海まで
・球磨川水系 川辺川
左右岸：球磨郡相良村大字柳瀬字三石又九百四十九番の一地先の柳瀬橋から球磨川合流点まで
- (4) 算出の前提となる降雨
年超過確率1/80 (人吉上流域の12時間の総雨量298mm[※])
年超過確率1/100 (横石上流域の12時間の総雨量301mm[※])
[※]2℃上昇の温暖化による降雨量の増加を考慮した対象降雨の降雨量
- (5) 河道条件：現況
- (6) 関係市町村 八代市、人吉市、芦北町、球磨村、相良村、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村
- ※この多段階の浸水想定図は水防法に基づく図ではありません。

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 3JHs 700」

1:45000(A0)